

## ～Profile～



篠崎史紀 (ヴァイオリン)

北九州市出身。愛称は“まる”。

3歳より両親の手ほどきを受け、1981年ウィーン市立音楽院に入学。翌年コンツェルト・ハウスでコンサート・デビューを飾る。その演奏は、「信頼性のあるテクニック、遊び心もある音楽性」(ウィナーツァイトウング紙)、「真珠を転がすような丸く鮮やかな音色、魅惑的な音楽性」(フォルクスシュティムメ紙)と各メディア紙から称賛される。1988年帰国後、群響、読響のコンサートマスターを経て、1997年N響のコンサートマスターに就任。以来“N響の顔”として国内外で活躍。ヨーロッパ公演では、「コンサートマスターの篠崎は言葉にならないくらい神がかった(イギリス紙)」「兵站学と調教が芸術へと進化し、コンサートマスターの篠崎「マロ」史紀のカリスマ的な姿は、銀白の鎧をまとった戦士のようなでもあり、全てを統括していた(イギリス紙のThe Classical Source)」と評される。

2025年3月惜しまれながらもその任を退く。1996年には東京ジュニアオーケストラを立ち上げ、また『楽興の時～室内楽セミナー&演奏会～』では指導及び共演を行うなど、後進の育成にも力を注いでいる。

2020年度第33回ミュージック・ペンクラブ音楽賞にて『MARO ワールド』がクラシック室内楽・合唱部門賞を受賞。

1979年史上最年少で北九州市民文化賞、2001年福岡県文化賞、2014年有馬賞受賞。

北九州文化大使。WHO国際医学アカデミー・ライフハーモニーサイエンス評議会議員。

使用楽器は1727年製ストラディバリウス(株式会社ミュージック・プラザより貸与)。

九州交響楽団ミュージック・アドバイザー、リーデンローズ音楽大使。



藤村俊介 (チェロ)

桐朋学園大学音楽学部卒業。チェロを安田謙一郎氏に師事。日本演奏連盟賞受賞。

第21回東京国際室内楽コンクール入賞。第58回日本音楽コンクールチェロ部門第2位。

1989年NHK交響楽団に入団。長年にわたりチェロ次席奏者を務める。

1993年アフィニス文化財団の研修員としてドイツに留学し、メロス・カルテットのペーター・ブック氏に師事。これまでに4枚のソロアルバム「バラ色の光り輝く雲が、ゆったりと流れ」「カサド:無伴奏チェロ組曲」「ダアンツァ・エスパニョーラ」「ハバネラ」及び、N響ヴァイオリン奏者大宮臨太郎とのデュオ・アルバム「パッサカリア」、師匠の安田謙一郎との2枚のアルバム「デュオ・チェロ」「レゾナンス」をリリースしているほか、チェロ四重奏のラ・クアルティエーナとして、10枚のアルバムをリリースしている。

現在NHK交響楽団の奏者、ラ・クアルティエーナのメンバーを務める他、

フェリス女学院大学講師、洗足学園大学客員教授として後進の指導に当たるなど、

ソロ、室内楽、オーケストラと多彩に活躍している。